# 2024 (令和6) 年度

教育研究等に係る自己点検・評価結果報告書



令和7年10月 札幌医科大学内部質保証推進委員会

# 目 次

1. 趣旨	 1
2. 基本的な考え方	 I
(1)自己点検・評価の対象事項	 I
(2)自己点検・評価の方法(概要)	 I
3. 総括	 2
4.各所属の自己点検・評価結果	 3
(1)医学部	 3
(2)医学研究科	 8
(3)保健医療学部	 13
(4)保健医療学研究科	 19
(5) 車攻科	 24

### 1. 趣 旨

大学における自己点検・評価については、学校教育法109条第 I 項により「大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と定められ、また、同法109条第 2 項では「当該大学の教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。」と定められていることから、公立大学においても、外部機関による認証評価の受審はもとより、自主的・自律的な質保証(内部質保証)の取組が求められている。

本学では、内部質保証の取組を推進するため、「北海道公立大学法人札幌医科大学内部質保証規則」を定めるとともに「北海道公立大学法人札幌医科大学内部質保証推進委員会(以下「委員会」という。)」を設置している。また、全学の自己点検・評価を実施するに当たり「北海道公立大学法人札幌医科大学全学自己点検・評価実施規程」を定め、当該規程の下に定める「札幌医科大学教育研究等に係る自己点検・評価実施細則(以下「実施細則」という。)」に基づき、自己点検・評価の実施主体として「内部質保証推進委員会認証評価部会(以下「部会」という。)」を設置の上、教育研究等に係る自己点検・評価の実施及び点検・評価の結果を踏まえた改善活動を推進する体制を整えている。

本報告書は、令和6年度に実施した教育研究等に係る自己点検・評価の結果と課題の改善 計画をまとめたものである。

#### 2. 基本的な考え方

### (1) 自己点検・評価の対象事項

実施細則に基づき、教育目標や三つの方針等に即した教区活動の有効性を検証し、その質の保証及び向上を目的として、公益財団法人大学基準協会が定める評価基準のうち、「基準4 教育・学習」及び「基準5 学生の受け入れ」を活用し、医学部・保健医療学部・医学研究科・保健医療学研究科・専攻科(以下「各学部等」という。)の現状を点検・評価を実施した。

#### (2) 自己点検・評価の方法(概要)

- ・ 実施細則に基づき、各学部等の長は部会からの依頼を受け「教育研究等に係る自己点 検・評価シート(以下「点検シート」という。)」を作成。
- · 各部会等の長は、作成した点検シートを教授会等の議を経て部会に提出。
- ・ 部会は点検シートを検証し検証結果を記載の上、委員会に提出。
- · 委員会は点検シートの内容を審議し、教育研究評議会に付議。教育研究評議会は審議 結果を学長に報告。
- ・ 学長は、教育研究評議会からの報告を基に自己点検・評価結果を決定。各学部等の長 に対し、結果を通知するとともに必要な改善等を指示する。

### 3. 総 括

令和6年度における教育研究等に係る自己点検・評価の結果、本学の内部質保証の関係規程に定める評価基準に照らし、若干の課題は見られるが、課題に対する改善計画が明確であり、おおむね基準を満たしていると判断する。

なお、本学が令和6年度に受審した大学機関別認証評価における指摘事項(改善を要する 点)への対応については、評価報告書の受領が令和7年3月末であったため、評価シート上 に言及はないが、令和7年度に関連の各委員会で検討を進め、改善を図る計画である。

### 【大学機関別認証評価における指摘事項(改善を要する点)】

○ 一部の学部のカリキュラム・ポリシーについては、中央教育審議会のガイドラインを 踏まえ、学習成果の評価の在り方を明示することが求められる。

#### 【各所属における全体の自己評価】

### 〇 評価基準

「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な改善すべき事項がある」、「C:重度な改善すべき事項がある」

所属	全体の自	1己評価
<i>[7]</i> (西	基準4	基準5
医 学 部	А	А
医学研究科	А	Α
保健医療学部	А	А
保健医療学研究科	А	А
専 攻 科	А	В

<sup>※</sup> 自己点検・評価の詳細は次頁以降を御参照のこと。

# 4. 各所属の自己点検・評価結果

## (1) 医学部

①達成すべき学習成果を明確 にし、教育・学習の基本的な あり方を示していること。  No. 401	<b>並在石</b>	評価の視点	自己点検・評価結果	
識、技能、態度等を明示していままた。CPにおいて、学習成果 いて、学習成果を選成するために 必要な教育課程及び教育・学習の 乃法を明確にしているか。 また、CPにおいて、学習成果 を達成するために必要な教育課程 必要な教育課程及び教育・学習の 乃法を明確にしているか。 No. 402 上記の学習成果は授与する学位に ている。 No. 402 上記の学習成果は授与する学位に でいる。 Po・ 2 世接与那種にしている。	評価項目	評価の税点	現状説明(概要)	評価
あり方を示していること。	①達成すべき学習成果を明確	No. 401 DPにおいて、学生が修得す <sup>,</sup>	べき知 DPにおいて、学生が習得すべき知	Α
いて、学習成果を達成するために	にし、教育・学習の基本的な	識、技能、態度等の学習成果	果を明 識、技能、態度等を明示してい	
必要な教育課程及び教育・学習の	あり方を示していること。	らかにしているか。また、(	CPにお る。また、CPにおいて、学習成果	
方法を明確にしているか。		いて、学習成果を達成する。	ためにを達成するために必要な教育課程	
No. 402   上記の学習成果は授与する学位に		必要な教育課程及び教育・	学習の及び教育・学習の方法を明確にし	
ふさわしいか。		方法を明確にしているか。	ている。	
果はAPに基づき評価していることから、学位授与の基準としてふさわしいと判断する。   ②学習成果の達成につながるよう、大学の理念に即した独自の医学教育課程にふさわしい 教育課程を体系的に編成している。		No.402 上記の学習成果は授与する:	学位に DPの達成に向け、体系的なカリ	Α
②学習成果の達成につながるよう、		ふさわしいか。	キュラムを提供しており、学修成	
②学習成果の達成につながる No. 403 学習成果の達成につながるよう、大学の理念に即した独自の医学教 大学の理念に即した独自の医学教 方 学 で アラムを含め、学習成果の			果はAPに基づき評価していること	
②学習成果の達成につながるよう、CPに沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているとと。  No. 403   学習成果の達成につながるよう、CPに沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているとと。  No. 404   授業形態、授業方法が学部・研究授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。 ③課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な投業形態、方法をとっている。これらいままた、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。  No. 405   ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。  No. 405   ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。  No. 405   ICTを利用した速隔投業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。 にでもので移行後は原則の対象を促し、かつ教員の負力を発生の対象の対象のを発生としているが、学生の対象の対象の学修を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。			から、学位授与の基準としてふさ	
はう各学位課程にふさわしい 授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している 定体系的に編成していること。			わしいと判断する。	
授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。 ②課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、授業方法が学部・研究といる。といまた、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるよう、CPに沿って、適した授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていることを確認している。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。学生の教行後は原則対面授業としているが、学生の対な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。関しては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後は原則対面授業としているが、学生の対な投業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。 ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	②学習成果の達成につながる	No. 403   学習成果の達成につながる.	よう、大学の理念に即した独自の医学教	Α
を体系的に編成していること。  ***  **  **  **  **  **  **  **  **				
と。 ③課程修了時に求められる学 No. 404 授業形態、授業方法が学部・研究 授業形態、授業方法を定めた規程 科の教育研究上の目的や課程修了 時に求める学習成果及びCPに応じ たものであり、期待された効果が 得られているか。 は、学部の教育研究上の目的や課程修了 は、学部の教育研究上の目的や課程修了 は、学部の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びCP に応じたものであり、達成に向けた意識が醸成され、期待された効果が得られていることを確認している。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、	授業科目を開設し、教育課程	育課程を体系的に編成してい	いる 達成につながるよう、CPに沿って	
③課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な 対の教育研究上の目的や課程修了 特に求める学習成果及びCPに応じ だものであり、期待された効果が は、学部の教育研究上の目的や課程修了 時に求める学習成果及びCPに応じ たものであり、期待された効果が は、学部の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びCP に応じたものであり、達成に向けた意識が醸成され、期待された効果が得られていることを確認している。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられている か。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生の効果の学修を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	を体系的に編成しているこ	か。	授業科目を開設し、教育課程を体	
習成果の達成のために適切な 授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意 欲的かつ効果的に進めるため の指導や支援を十分に行っていること。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供す る場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供す る場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。 は、学部の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びCPに応じたものであり、達成に向けた意識が醸成され、期待された効果が得られていることを確認している。 ICTを利用した遠隔授業の提供に関しては、新型コロナウイルス感した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生の対象の学修を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	と。		系的に編成している。	
接業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生の方針な工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生の対理を促し、かつ教員の負が得られているか。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した投業科目に用いられているが、対理の投業としているが、学生の対理を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な投業形態を令和7年度内に検討する。	③課程修了時に求められる学	No.404 授業形態、授業方法が学部	・研究 授業形態、授業方法を定めた規程	Α
こと。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているした授業科目に用いられているか。  No. 405 が得られているが、学生のうな工夫を講じ、期待された効果が可含を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	習成果の達成のために適切な	科の教育研究上の目的や課程	程修了 等に基づき、講義、実験、実習及	
欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。    得られているか。   程修了時に求める学習成果及びCPに応じたものであり、達成に向けた意識が醸成され、期待された効果が得られていることを確認している。   No. 405   ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているが、対生のうな工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生のうな工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生の対理が発達としているが、学生の対理を経滅するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	授業形態、方法をとっている	時に求める学習成果及びCPI	に応じ び演習等を行っている。これら	
の指導や支援を十分に行っていること。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているが、学生の対象の主たが得られているか。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているが、第型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後は原則対面授業としているが、学生の対象の対象の対象を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	こと。また、学生が学習を意	たものであり、期待された3	効果がは、学部の教育研究上の目的や課	
いること。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供す	欲的かつ効果的に進めるため	得られているか。	程修了時に求める学習成果及びCP	
Rが得られていることを確認している。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。  No. 405 ICTを利用した遠隔授業の提供に関しては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後は原物のまた、効果的な授業となるより対面授業としているが、学生の効果の学修を促し、かつ教員の負担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。	の指導や支援を十分に行って		に応じたものであり、達成に向け	
No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供す ICTを利用した遠隔授業の提供に る場合、自らの方針に沿って、適 した授業科目に用いられている 染症の5類感染症への移行後は原 か。また、効果的な授業となるよ 則対面授業としているが、学生の うな工夫を講じ、期待された効果 効果的学修を促し、かつ教員の負 が得られているか。	いること。		た意識が醸成され、期待された効	
No. 405 ICTを利用した遠隔授業を提供す ICTを利用した遠隔授業の提供に る場合、自らの方針に沿って、適 関しては、新型コロナウイルス感 2 決症の5類感染症への移行後は原 か。また、効果的な授業となるよ 則対面授業としているが、学生の うな工夫を講じ、期待された効果 が得られているか。			果が得られていることを確認して	
る場合、自らの方針に沿って、適 した授業科目に用いられている か。また、効果的な授業となるよ うな工夫を講じ、期待された効果 が得られているか。 担を軽減するため、ICTを活用し た効率的な授業形態を令和7年度 内に検討する。				
した授業科目に用いられている か。また、効果的な授業となるよ 則対面授業としているが、学生の うな工夫を講じ、期待された効果 が得られているか。 担を軽減するため、ICTを活用し た効率的な授業形態を令和7年度 内に検討する。		No.405 ICTを利用した遠隔授業を提	提供す  ICTを利用した遠隔授業の提供に	В
か。また、効果的な授業となるよ うな工夫を講じ、期待された効果 が得られているか。 が得られているか。 地を軽減するため、ICTを活用し た効率的な授業形態を令和7年度 内に検討する。				
うな工夫を講じ、期待された効果 が得られているか。 担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度 内に検討する。		した授業科目に用いられてい	いる   染症の5類感染症への移行後は原	
が得られているか。 担を軽減するため、ICTを活用した効率的な授業形態を令和7年度内に検討する。		か。また、効果的な授業と	なるよ 則対面授業としているが、学生の	
た効率的な授業形態を令和7年度 内に検討する。		うな工夫を講じ、期待された	た効果 効果的学修を促し、かつ教員の負	
内に検討する。		が得られているか。	担を軽減するため、ICTを活用し	
			た効率的な授業形態を令和7年度	
11 12 12 14 11 12 14 - 12 14 - 15 14 - 15 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14				
No.406   授業の目的が効果的に達成できる   医学部の特性上、必修科目が多い   A		No.406 授業の目的が効果的に達成 <sup>-</sup>	できる医学部の特性上、必修科目が多い	Α
よう、学生の多様性を踏まえた対が、一例として各学年に配置する		よう、学生の多様性を踏ま	えた対が、一例として各学年に配置する	
応や学生に対する適切な指導等を  学生担当教員によるフォローアッ		応や学生に対する適切な指導	導等を   学生担当教員によるフォローアッ	
行い、それによって学生が意欲的 プやシラバス作成ガイドラインに		行い、それによって学生が	意欲的 プやシラバス作成ガイドラインに	
かつ効果的に学習できているか。 基づくシラバスの作成など、授業		かつ効果的に学習できてい	るか。 基づくシラバスの作成など、授業	
の目的が効果的に達成できるよ			の目的が効果的に達成できるよ	
う、学生の多様性を踏まえた対応			う、学生の多様性を踏まえた対応	
や学生に対する適切な指導等を			や学生に対する適切な指導等を	
行っており、学生が意欲的かつ効			行っており、学生が意欲的かつ効	
果的に学習できている。			果的に学習できている。	

評価項目			自己点検・評価結果	
計画項目		計画の税点	現状説明(概要)	評価
	No.407	成績評価及び単位認定を客観的か	成績評価及び単位認定について、	Α
位授与を適切に行っているこ		つ厳格で、公正、公平に実施して	評価方法や形式を授業科目ごとに	
と。		いるか。	定め、各科目の目標に沿ったアセ	
			スメント・マップを作成の上、評	
			価基準を明確化するなどにより、	
			客観的かつ厳格で、公正、公平に	
			実施している。今後は新たに策定	
			した全学的な成績評価に関するガ	
			イドラインに則り、取組を推進す	
			る計画である。	
	No.408		成績評価及び単位認定にかかる基	Α
		準・手続(学生からの不服申立へ		
			て、シラバスを通じて学生に明示	
		るか。	しているほか、評価結果について	
			の疑義申立制度を設けている。	
	No.409		既修得単位や実践的な能力を修得	Α
			している者に対する単位の認定に	
		を適切に行っているか。	ついては、教授会の議を経て学部	
			長が認定することや、手続きの手	
			順及び対象となる実践的能力等に	
			ついても規程に定め、適切に運用	
		W (154 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	している。	
	No.410		学位授与における実施手続き及び	Α
		制が明確であるか。	体制については、教授会の議を経	
			ることなどを規程に明確に定めて	
	N (11		運用している。	
	No.411		学位授与に係る実施手続きや体制	Α
		ているか。	を整備の上、学部の教育方針やDP	
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	N - / 12	<u> </u>	に基づき、適切に実施している。	
した学生の学習成果を適切に		学習成果を把握・評価する目的や	I I	Α
		指除、刀法守に ノいくろんを明確  にしているか。	指標、方法等についての考えを明 確にするため、全学及び学部のそ	
把握及び評価していること。 			れぞれに3ポリシーを策定し、こ	
			れらのポリシーに基づき、教育評	
			作らのホリシーに基づさ、教育計   価の方針(アセスメント・ポリ	
			辿のカゴ (アピスメンド・ホテー   シー)を定めている。また、学修	
			て、カリキュラム・マップ及びア	
			セスメント・マップを策定し導入	
			している。	
	No 413	学習成果を把握・評価する指標や	-	В
	110. 413		方法に関し、ポリシーやコンピテ	J
		らして適切なものか。	ンス・コンピテンシー等に基づ	
			き、適切な運用に努める一方で、	
			臨床実習における評価方法の妥当	
			性の検証については講座間で取組	
			の濃淡があるため、均一化を図る	
			必要があると認識している。令和	
			7年度に現状の確認・検証を行	
			い、改善を図る計画である。	
	l .		v 、 - 入日 C 口 O I I 凹 ( の) O 。	

<b>並在在</b> 口		が任の祖上	自己点検・評価結果	
評価項目		評価の視点	現状説明(概要)	評価
⑤学位授与方針(DP)に明示	No.414	指標や方法を適切に用いて学習成	指標や方法を適切に用いた学習成	В
した学生の学習成果を適切に		果を把握・評価し、大学として設	果の把握・評価に関し、学生に対	
把握及び評価していること。		定する目的に応じた活用を図って	する授業評価アンケートの見直し	
		いるか。	や、アセスメントマップを活用し	
			た学修成果の達成度の確実な評価	
			に資するためのマイルストーンの	
			設定が必要と認識しており、それ	
			ぞれ検討を進め令和7年度中に改	
			善を図る計画である。	
⑥教育課程及びその内容、教	No.415	教育課程及びその内容、教育方法	令和6年度から新たな内部質保証	Α
育方法について定期的に点		に関する自己点検・評価の基準、		
検・評価し、改善・向上に向			自己点検・評価の体制、方法及び	
けて取り組んでいること。		明確にしているか。	周期等を規程に定め、大学公式	
			Webにも掲載している。	
	No.416	課程修了時に求められる学習成果		Α
			在学生・卒業生を対象とした各種	
			の調査を実施しており、調査結果	
			を基に教学IRデータブックを発刊	
			するなど、情報の収集・分析に継	
		ているか。	続して取り組んでいるほか、過去	
			の国家試験合格率を基に試験対策	
			の実施又は改善を適宜実施してい	
			3.	
	No.417	外部の視点や学生の意見を取り入		Α
		れるなど、自己点検・評価の客観		
			関・教育機関等の外部者が委員会	
		るか。	へ参加の上、議論に加わる体制を	
			整えている。また、毎期実施され	
			る授業評価アンケートに加え、学	
			生から幅広い意見・要望を聴く機	
			会として学生グループ制や学生支	
			援会議を毎年企画・実施してい	
			3.	
	No.418	自己点検・評価の結果を活用し、	自己点検・評価の体制は整っているが、対照などのような	В
		教育課程及びその内容、教育方法		
		の改善・向上に取り組んでいる	の一連の取組については実績を積	
		か。 -	み重ねていく必要があると認識し	
			ており、関連の委員会において継	
			続的に検討の上、取組を推進して	
	l		いく計画である。	

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計画項目		計画の税点	現状説明(概要)	評価
①学生の受け入れ方針(AP)	No. 501	APは、少なくとも学位課程ごと	求める学生像、入学までに学習し	Α
に基づき、学生募集及び入学		(学士課程・修士課程・博士課	ておくことが期待される内容、入	
者選抜の制度や運営体制を適		程・専門職学位課程)に設定して	学者選抜の基本方針をAPとして示	
切に整備し、入学者選抜を公		いるか。	しており、これらの理念に沿って	
平、公正に実施しているこ			入学者選抜を行っている。	
	No. 502	APは、入学前の学習歴、学力水	APには、入学前の学習歴、学力水	Α
		準、能力等の求める学生像や、入	準、能力等の求める学生像や、入	
		学希望者に求める水準等の判定方	学希望者に求める水準等の判定方	
		法を志願者等に理解しやすく示し	法を理解しやすく示している。ま	
		ているか。	た、入学者に求める資質・能力に	
			ついて、入学者選抜要項、学生募	
			集要項及び大学公式Webに掲載し	
			ている。	
	No. 503	APに沿い、適切な体制・仕組みを	入試委員会の下に複数の委員会を	Α
		構築して入学者選抜を公平、公正	設置し、相互の連携・協力体制を	
		に実施しているか。	確保した上で、APに沿った入学者	
			選抜を公平、公正に実施してい	
			る。	
	No. 504	入学者選抜にあたり特別な配慮を	関係規程を整備の上、入学者選抜	Α
		必要とする志願者に対応する仕組	にあたり特別な配慮を必要とする	
		みを整備しているか。	志願者に対応する体制を構築して	
			いる。また、特別な配慮を要する	
			志願者に対し、学生募集要項や大	
			学公式Webなどに事前相談できる	
			旨を明記し、対応している。	
	No. 505	すべての志願者に対して分かりや	入学者選抜要項及び学生募集要項	Α
		すく情報提供しているか。	は大学公式Webで公表しており、	
			すべての志願者に対して分かりや	
			すく情報提供しているほか、建学	
			の精神やAP等、入試に関する詳細	
			な情報をまとめた冊子「LEAP」を	
			毎年作成し、大学公式Webに掲載	
			又は配付している。	
②適切な定員を設定して学生	No. 506	学士課程全体及び各学部・学科並	合格者は入学者選抜委員会及び入	Α
の受け入れを行うとともに、		びに各研究科・専攻の入学者数や	試委員会で審議している。合格通	
在籍学生数を収容定員に基づ		在籍学生数を適正に維持し、大幅	知発送後に辞退が生じた場合にお	
き適正に管理していること。		な定員超過や定員未充足の場合に	いても、3/3 までに追加合格者を	
		は対策をとっているか。	決定しており、現状で大幅な超過	
			や未充足といった問題はなく、適	
			正な範囲で推移している。	

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計画項目		計画の代点	現状説明(概要)	評価
③学生の受け入れに関わる状	No. 507	学生の受け入れに関わる事項を定	入試広報、入試、入学後の学生の	Α
況を定期的に点検・評価し、		期的に点検・評価し、当該事項に	分析の3つに分けて定期的に点	
改善・向上に向けて取り組ん		おける現状や成果が上がっている	検・評価を行っており、これまで	
でいること。		取り組み及び課題を適切に把握し	の結果を踏まえ、令和4年度から	
		ているか。	医学部入試制度改革について検討	
			しており、令和8年度入学者選抜	
			から施行することとしている。今	
			後も継続的に制度の現状、成果及	
			び課題を適切に把握し、改善に取	
			り組む計画である。	
③学生の受け入れに関わる状	No. 508	点検・評価の結果を活用して、学	点検・評価の結果は、入学者選抜	Α
況を定期的に点検・評価し、		生の受け入れに関わる事項の改	が実施された当該年度中に入試関	
改善・向上に向けて取り組ん		善・向上に取り組み、効果的な取	連委員会で審議し、審議結果は次	
でいること。		り組みへとつなげているか。	年度に関係部署に引き継いでい	
			る。直近の事例として、オンライ	
			ン出願システムの導入、オープン	
			キャンパスの内容の大幅な見直し	
			など、学生の受け入れに関わる事	
			項の改善・向上を図っている。ま	
			た、入試運営に携わった教職員に	
			よる振り返り結果の収集・活用に	
			より、入試ミスの防止や入試業務	
			の改善に反映している。	

### <医学部>

- 課題 (B評価) については、記載のとおり改善を進めることが妥当。
- No.408について、保健医療学部の運用と整合を図るため、協議・検討することが妥当(令和7年度末まで)。
- 大学機関別認証評価評価における指摘事項について、CPに学習成果の評価の在り方を明示するよう検討することが妥当(令和7年度末まで)。

# (2) 医学研究科

≥5. /5. ×5. ×5.		27.17 o 28 h	自己点検・評価結果	
評価項目		評価の視点	現状説明(概要)	評価
①達成すべき学習成果を明確	No. 401	DPにおいて、学生が修得すべき知	医学研究科の博士課程と修士課程	Α
にし、教育・学習の基本的な		識、技能、態度等の学習成果を明	のそれぞれにDPを定め、学生が習	
あり方を示していること。		らかにしているか。また、CPにお	得すべき知識、技能、態度等を明	
		いて、学習成果を達成するために	示している。また、課程ごとにDP	
			に適切に関連したCPを設定し、学	
		方法を明確にしているか。	習成果を達成するために必要な教	
			育課程及び教育・学習の方法を明	
			確にしている。	
	No. 402	上記の学習成果は授与する学位に		Α
		ふさわしいか。	育成及び教育研究上の目的に関連	
			したDPとなっているため、授与す	
		Wan bar ast by	る学位にふさわしいと判断する。	
②学習成果の達成につながる	No. 403	学習成果の達成につながるよう、		A
よう各学位課程にふさわしい		CPに沿って授業科目を開設し、教		
授業科目を開設し、教育課程		育課程を体系的に編成している	コースワークとリサーチワークに	
を体系的に編成しているこ		か`。	よる体系的な教育課程を編成して	
と。			いる。また、文部科学省の「次世	
			代がんプロフェッショナル養成プ	
			ラン」の採択を受け、博士課程に	
			「がん研究コース」、修士課程に 「がん遺伝カウンセリングコー	
			ス」を設けており、道内の医療系	
			大」を設りており、週内の医療系   大学の英知を結集し、医療機関と	
			八子の央知を結果し、医療機関と   も連携して高度な専門教育を提供	
			することにより、包括的がん医療	
			を担う次世代のがんプロフェッ	
			ショナルの養成を行っている。	
③課程修了時に求められる学	Νο 404	授業形能 授業方法が学部・研究	各課程の授業形態及び授業方法は	Α
習成果の達成のために適切な	110. 404	科の教育研究上の目的や課程修了		, ,
授業形態、方法をとっている			バスには授業科目ごとに授業形態	
こと。また、学生が学習を意		たものであり、期待された効果が		
欲的かつ効果的に進めるため		得られているか。	求められる学修成果に対応してい	
の指導や支援を十分に行って			る。各課程の学位の取得状況に照	
いること。			らし、期待された効果が得られて	
			いることを確認している。	
	No. 405	ICTを利用した遠隔授業を提供す	e-ラーニングの運用方法などは、	Α
		る場合、自らの方針に沿って、適	教務委員会及び研究科委員会で審	
			議し決定しており、学修管理シス	
		か。また、効果的な授業となるよ	テムを活用した遠隔授業を推進し	
		うな工夫を講じ、期待された効果	ている。学生に対するe-ラーニン	
		が得られているか。	グに関するアンケート結果を科目	
			担当者にフィードバックし改善を	
			図っており、より効果的な授業と	
			なるよう工夫を講じている。	

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計画項目		計画の税点	現状説明(概要)	評価
③課程修了時に求められる学	No.406	授業の目的が効果的に達成できる	研究活動の推進と指導体制の充実	Α
習成果の達成のために適切な		よう、学生の多様性を踏まえた対	を図るため、指導教員は学生と十	
授業形態、方法をとっている		応や学生に対する適切な指導等を	分に打ち合わせを行い、研究指導	
こと。また、学生が学習を意		行い、それによって学生が意欲的	計画書に基づき、きめ細かな教育	
欲的かつ効果的に進めるため		かつ効果的に学習できているか。	指導を実施している。また、履修	
の指導や支援を十分に行って			科目やその他の教育研究活動全般	
いること。			についての指導と助言も行ってい	
			る。長期履修制度により計画的に	
			学位取得を目指す環境を整備して	
			いるほか、シラバス作成ガイドラ	
			インに基づくシラバスの作成な	
			ど、学生の意欲的かつ効果的な学	
			習を支援している。	
	No. 407	成績評価及び単位認定を客観的か		Α
位授与を適切に行っているこ		つ厳格で、公正、公平に実施して	定める評価基準及び各科目の到達	
と。		いるか。	目標により判定しており、各科目	
			の目標に沿ったアセスメント・	
			マップを作成の上、評価基準を明	
			確化するなどにより、客観的かつ	
			厳格で、公正、公平に実施してい	
			る。今後は新たに策定した全学的	
			な成績評価に関するガイドライン	
			に基づき、取組を推進する計画で	
			ある。	
	No. 408	成績評価及び単位認定にかかる基		Α
		準・手続(学生からの不服申立へ		
			通じて学生に明示している。成績	
		るか。	疑義などの学生からの不服申立の	
			手続きについては、実施要領を定	
			め、学生がアクセス可能な学内サ	
			イトに掲載している。	
	No. 409	既修得単位や実践的な能力を修得		Α
			科委員会の議を経て研究科長が認	
		を適切に行っているか。	定することや手続きの手順等を規	
	N (10	W/LIG - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	程に定め、適切に運用している。	
	No.410	学位授与における実施手続及び体		Α
		制が明確であるか。	体制については、研究科委員会の	
			議を経ることなどを規程に明確に	
	<b>M</b>	DOI-BILL - VELO-VELLA IN L.	定めて運用している。	
	No.411	DPに則して、適切に学位を授与し		Α
		ているか。	を整備の上、研究科の教育方針や	
			DPに基づき適切に実施している。	

評価項目		日上	自己点検・評価結果	
計価項目	5十1回 V ノ1	光尽	現状説明(概要)	評価
⑤学位授与方針 (DP) に明示	No.412 学習成果を把扱	屋・評価する目的や	学修成果を把握・評価する目的や	Α
した学生の学習成果を適切に	指標、方法等に	こついて考えを明確	指標、方法等についての考えを明	
把握及び評価していること。	にしているか。		確にするため、全学及び研究科の	
			それぞれに3ポリシーを策定し、	
			これらのポリシーに基づき、教育	
			評価の方針(アセスメント・ポリ	
			シー)を定めている。	
			学習成果を把握・評価する指標や	В
			方法に関し、適切な運用に努める	
	らして適切なも	らのか。	一方で、各課程のアセスメント・	
			ポリシーの見直しやアセスメン	
			ト・リストの追加により、DPと学	
			修成果の関連を明確化する必要が	
			あると認識しており、令和7年度	
			末までに改善を図る計画である。	
			指標や方法を適切に用いた学習成	В
			果の把握・評価に関し、各課程の	
		じた沽用を凶って	アセスメント・ポリシーに基づく	
	いるか。		学修成果とDPとの整合性を高める	
			ため、令和7年度末までにアセス	
			メント・プランの見直しなどの改	
○ 数 方 調 和 乃 び え の 中 穴 数	No ALE 数本細和及び2	この中央 数玄士は	善に取り組む計画である。 ◆和6年度から新たな内部質保証	Α
育方法について定期的に点			体制下での運用を開始しており、	A
検・評価し、改善・向上に向			自己点検・評価の体制、方法及び	
けて取り組んでいること。	明確にしている		周期等を規程に定め、大学公式	
いた状が温んといること。	- 万位EVC O C V · S	J // 0	Webにも掲載している。	
	No.416 課程修了時にも	おめられる学習成里	指導教員が研究指導計画書に基づ	Α
			き教育指導を行っており、研究や	
			学位論文の作成指導に加え、履修	
			科目やその他の教育研究活動全般	
			についても指導・助言を行ってい	
	ているか。		る。DPの達成度に係る評価につい	
			て、今後、学生に対する修了時の	
			自己評価アンケートの結果を用い	
			て、教育の課程、内容等の改善・	
			向上に取り組む計画である。	
	No.417 外部の視点や等	学生の意見を取り入	自己点検・評価の客観性を高める	Α
	れるなど、自己	己点検・評価の客観	ため、学生を対象とした授業評価	
	性を高めるため	りの工夫を行ってい	アンケートを実施しており、調査	
	るか。		結果を検証の上、教育内容の改善	
			に役立てている。	
	No.418 自己点検・評価		学生を対象とした授業評価アン	Α
			ケートを実施しており、調査結果	
	の改善・向上に	に取り組んでいる	を関係の教員及び委員会にフィー	
	か。		ドバックし、定期的に教育内容の	
			見直しや課題を共有する機会を設	
			けている。	

評価項目			自己点検・評価結果	
可障力口		91 Im < 2 DOW	現状説明(概要)	評価
①学生の受け入れ方針(AP) に基づき、学生募集及び入学	No.501		医学研究科では、課程ごとにAPを 設定しており、大学公式Webや学	Α
者選抜の制度や運営体制を適 切に整備し、入学者選抜を公		程・専門職学位課程)に設定しているか。	生募集要項にも掲載している	
平、公正に実施しているこ	No. 502		課程ごとに定めるAPに、求める学	Α
٧.			とが期待される内容を志願者に分	
		法を志願者等に理解しやすく示しているか。	かりやすく明示している。また、 入学者に求める資質・能力につい	
		- C いるか。	て、学生募集要項及び大学公式	
			Webに掲載している。	
	No. 503	APに沿い、適切な体制・仕組みを 構築して入党を選抜を公平、公正	入学者選抜を適切に実施するた  め、関係規程に基づき、医学研究	Α
		情楽して入子有選扱を公平、公正   に実施しているか。	科の過程ごとに入試委員会を設置	
			しており、APに沿い選抜の方針、	
			方法及び体制を検討し決定の上、	
			公平、公正な試験を実施してい	
			る。	
	No.504	入学者選抜にあたり特別な配慮を	関係規程を整備の上、入学者選抜	Α
			にあたり特別な配慮を必要とする	
		みを整備しているか。	志願者に対応する体制を構築して	
			いる。また、特別な配慮を要する	
			志願者に対し、学生募集要項や大	
			学公式Webなどに事前相談できる	
	No EOE	ナベスの土師老に対して八かりめ	旨を明記し、対応している。 希望者に学生募集要項の冊子を配	Α
	10.303	すべての志願者に対して分かりや  すく情報提供しているか。	竹里名に子生券果安頃の冊子を配   付するほか、大学公式Webで公表	A
		外へ同報に対しているが。	し、すべての志願者に対して分か	
			りやすく情報提供している。	
②適切な定員を設定して学生	No. 506	  学士課程全体及び各学部・学科並	関係規程に基づき、課程ごとの入	В
の受け入れを行うとともに、			学者及び在籍学生数の適正な管理	
在籍学生数を収容定員に基づ			に努める一方で、修士課程の充足	
き適正に管理していること。		な定員超過や定員未充足の場合に	率が低減している。対応策とし	
		は対策をとっているか。	て、現状分析や方略の検討を行う	
			ワーキンググループの設置やオン	
			ライン授業の拡充による学修環境	
			の利便性向上などの改善活動を進	
			めており、今後も、継続的に改善	
	N- F0F	当40至4118412東西 <i>+</i> ウ	に取り組む計画である。	^
③学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、	NO.507	学生の受け入れに関わる事項を定期的に占給、評価し、お対事項に	子生の受人に関する事項につい    て、医学研究科では、研究科委員	Α
改善・向上に向けて取り組ん			(、 医子研究件 ( は、研究件安貞   会が中心となり、課題の共有や改	
でいること。			善の働きかけを行っている。各課	
		ているか。	程及びMD-PhDプログラムに係る入	
			試の適切性は各々の入試委員会で	
			審議しており、今後も成果及び課	
	]		題を適切に把握できるよう取組を	
	<u></u>		推進していく計画である。	
③学生の受け入れに関わる状	No.508	点検・評価の結果を活用して、学	修士課程においては、入学者獲得	Α
況を定期的に点検・評価し、	]		に向けたワーキンググループを設	
改善・向上に向けて取り組ん	]		置し、定員割れの現状分析や入学	
でいること。	]	り組みへとつなげているか。	者獲得の方略の検討に着手してお	
	]		り、また、オンライン授業の整備	
	]		を進めるなど、学生の受け入れに	
	]		関わる事項の改善・向上を図って	
			いる。	

### <医学研究科>

○ 課題 (B評価) については、記載のとおり改善を進めることが妥当。

## (3) 保健医療学部

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計画項目		計画の充点	現状説明(概要)	評価
①達成すべき学習成果を明確 にし、教育・学習の基本的な あり方を示していること。	No. 401	らかにしているか。また、CPにお いて、学習成果を達成するために		<u>評価</u> B
	No. 402	上記の学習成果は授与する学位に ふさわしいか。	め、学部のDP及びCPとの整合性を確保している。一方で、各DPと各CPの関連性をより明確にする必要があると認識しており、令和7年度に検討を行う計画である。学士の学位授与の要件は規程に定めており、各学科ごとにDPを定めている。また、各学科のDPには教育目標との連関を意識した複数の	A
			学修成果を掲げており、授与する  学位に相応しいと判断する。	
②学習成果の達成につながる よう各学位課程にふさわしい 授業科目を開設し、教育課程 を体系的に編成しているこ と。	No. 403		学型に相応UNと判断する。 学型に相応UNと判断する。 学部共通のDP及びCPを策定を記した。 学部による。 学科でとのDP・CP及びCPにびいる。 学科ではいる。 学科ではないなな育課編成でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	В

評価項目	 評価の視点	自己点検・評価結果	
計価項目	評価の税点	現状説明(概要)	評価
③課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	時に求める学習成果及びCPに応し	記 授業形態、授業方法を定めた規程 授業形態、授業方法を定めた規程 等に基づき、講義、演習、2020年度 が カリキュラムから能動的学学を 力りに取り会替と学学の を取り組む姿勢と自己学習の実 で 取り級でおり、2023年度の で で の 達し で に 動的との 回答があり、 な に 動的との 回答があり、 な に 対していることを確認 している。	A
	した授業科目に用いられている か。また、効果的な授業となる。		A
	応や学生に対する適切な指導等を 行い、それによって学生が意欲的	学習状況に付いて 学習状況に付いて 学習状況に付いて の方ので でで でで でで でで でで でで でで でで でで	A

~ 伍石口		で / T の 初 上	自己点検・評価結果	
評価項目		評価の視点	現状説明(概要)	評価
④成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。	No. 407	成績評価及び単位認定を客観的か つ厳格で、公正、公平に実施して いるか。	成績評価及び単位認定について、 関係規程に明確に定めており、客 観的かつ厳格で、公正、公平に実	Α
			施している。今後は新たに策定した全学的な成績評価に関するガイドラインに基づき、取組を推進す	
			る計画である。	
	No. 408		成績評価及び単位認定のための評	В
			価は、関係規程に明確に定めており、成績評価の対象と方法はシラ	
		るか。	バスに明示している。また、成績	
			疑義など学生からの不服申立の手	
			続きを規定しており、学生便覧に	
			明示している。一方で、全学の疑	
			義申し立て制度を俯瞰した場合、	
			実施要領等が統一されておらず、 学部合同の授業等での混乱が懸念	
			される。整合性のある制度となる	
			よう、令和7年度中に医学部と協	
			議し検討を行う計画である。	
	No. 409	既修得単位や実践的な能力を修得		Α
			している者に対する単位の認定に	
		を適切に行っているか。 	ついては、教授会の議を経て学部	
			長が認定することや、手続きの手 順及び対象となる実践的能力等に	
			ついても規程に定め、適切に運用	
			している。	
	No.410	学位授与における実施手続及び体		Α
		制が明確であるか。	体制については、教授会の議を経	
			ることなどを規程に明確に定めて 運用している。	
	No.411	DPに則して、適切に学位を授与し	学位授与に係る実施手続きや体制	Α
		ているか。	を整備の上、学部の教育方針やDP	
			に基づき、適切に実施している。	
⑤学位授与方針(DP)に明示	No.412	学習成果を把握・評価する目的や		Α
した学生の学習成果を適切に 把握及び評価していること。		指標、方法等について考えを明確  にしているか。	指標、方法等についての考えを明 確にするため、全学及び学部のそ	
1022次の計画のですること。			れぞれに3ポリシーを策定し、こ	
			れらのポリシーに基づき、教育評	
			価の方針(アセスメント・ポリ	
			シー)を定めている。また、DPに	
			掲げる能力・資質の習得状況を把	
	1		握することを目的として、アセス メント・リストを策定し導入して	
	1		いる。これらのポリシー等は教授	
	1		会を通じて周知・共有しており、	
			大学公式Webにおいても公開して	
	N	W10 1 H 2 H 1 H 1 H 1 H 1 H 1 H 1 H 1 H 1 H	NS.	
	No.413	学習成果を把握・評価する指標や ち注け、DDに定めた学習成果に照		S
		万法は、DPに定めた字質成果に照  らして適切なものか。	学修成果を把握・評価する指標や  方法として、直接評価及び間接評	
		) C C 22 71 6 O V/V 0	価の観点を含めた多面的な評価指	
			標を用いてDPの全項目を把握して	
			いる。	

評価項目			自己点検・評価結果	
可順気口		р   Imi < У 1)С/т	現状説明(概要)	評価
⑤学位授与方針 (DP) に明示	No.414	指標や方法を適切に用いて学習成	毎年、ルーブリック評価やOSCE評	В
した学生の学習成果を適切に		果を把握・評価し、大学として設	価等で把握した成績・評価を関係	
把握及び評価していること。		定する目的に応じた活用を図って	委員会及び教授会に報告し、課題	
		いるか。	や問題点を集約し周知・共有の	
			上、授業レベル・教育課程レベル	
			のそれぞれで実施する改善活動に	
			繋げている。一方で、授業評価ア	
			ンケートや在学生調査等の調査結	
			果が効率的に共有されていないこ	
			と、また、GPAの実運用に課題が	
			あると認識しており、全学レベル	
			での効率的なデータ共有方法の検	
			討やGPAを活用した学修到達レベ	
			ルの評価について、令和7年度中	
			に調査実施主体に検討又は学部内	
			で改善を図る計画である。	
	No.415		令和6年度から新たな内部質保証	Α
育方法について定期的に点		に関する自己点検・評価の基準、		
検・評価し、改善・向上に向			自己点検・評価の体制、方法及び	
けて取り組んでいること。		明確にしているか。	周期等を規程に定め、大学公式	
			Webにも掲載している。	
	No.416	課程修了時に求められる学習成果の別点の選択		В
			メント・リストを設定し、学修成	
		ける学生の学習状況、資格試験の取得状況、推路状況等の情報など	l l	
		取侍状況、進路状況寺の情報を活 用するなど、適切な情報に基づい	る評価・検証を行っており、科目	
		Tいるか。   ののなりなりなりなりなりなりない。	や投業内谷に心してループリック   評価を実施している。また、IR	
		( \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	推進センターにおいて新入生・在	
			学生・卒業生を対象とした各種の	
			調査を実施しており、調査結果を	
			基に教学IRデータブックを発刊す	
			るなど、情報の収集・分析に取り	
			組んでいる。一方で、授業評価ア	
			ンケートの回収率の改善や、自己	
			点検・評価に関するデータに学部	
			の教員が適時にアクセスできない	
			点は課題と認識しており、令和7	
			年度中に調査実施主体に検討・改	
			善を要請する計画である。	
	No.417	外部の視点や学生の意見を取り入	学生や行政機関・医療機関及び教	Α
		れるなど、自己点検・評価の客観	育機関等の関係者の外部者が委員	
		性を高めるための工夫を行ってい	会へ参加の上、議論に加わる体制	
		るか。	を整えているほか、保健医療学部	
			カリキュラム委員会では、学生を	
			対象としてカリキュラム調査を毎	
			年実施している。IR推進セン	
			ターにおいては、新入生と在校生	
			を対象とした調査を毎年実施して	
			いる。このほか、毎期実施される	
			授業評価アンケートや、学生から	
			幅広い意見等を聴く機会として学	
			生支援会議を毎年開催している。	
	No.418	自己点検・評価の結果を活用し、		Α
			し、保健医療学部カリキュラム委員会がより、発展している。	
		の改善・向上に取り組んでいる	員会で点検・評価を行い、各学科	
		か。	と連携し改善に取り組んでいる。	

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計画項目		計画の税点	現状説明(概要)	評価
①学生の受け入れ方針 (AP) に基づき、学生募集及び入学 者選抜の制度や運営体制を適 切に整備し、入学者選抜を公	No. 501		学部の看護学科、理学療法学科、 作業療法学科のそれぞれにAPを設 定している。	А
平、公正に実施していること。	No. 502	APは、入学前の学習歴、学力水 準、能力等の求める学生像や、入 学希望者に求める水準等の判定方	APには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者に理解しやすく示している。また、入学者に求める資質・能力について、入学者選抜要項、学生募集要項及び大学公式Webに掲載している。	A
	No. 503	APに沿い、適切な体制・仕組みを 構築して入学者選抜を公平、公正 に実施しているか。		A
	No. 504		関係規程を整備の上、入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する体制を構築している。また、特別な配慮を要する志願者に対し、学生募集要項や大学公式Webなどに事前相談できる旨を明記し、対応している。	A
	No. 505	すべての志願者に対して分かりや すく情報提供しているか。	入学者選抜要項及び学生募集要項は大学公式Webで公表しており、すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているほか、建学の精神やAP等、入試に関する詳細な情報をまとめた冊子「LEAP」を毎年作成し、大学公式Webに掲載又は配付している。	A
②適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、 在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。		びに各研究科・専攻の入学者数や 在籍学生数を適正に維持し、大幅	合格者は入学者選抜委員会及び入 試委員会で審議している。合格通 知発送後に辞退が生じた場合にお いても、3/31までに追加合格者を 決定しており、現状で大幅な超過 や未充足といった問題はなく、適 正な範囲で推移している。	S

<b>並任</b> 百日		シェク 担占	自己点検・評価結果	
評価項目		評価の視点	現状説明(概要)	評価
③学生の受け入れに関わる状	No.507	学生の受け入れに関わる事項を定	学部学生の受け入れに関する事項	В
況を定期的に点検・評価し、		期的に点検・評価し、当該事項に	の点検・評価は入試広報、入試、	
改善・向上に向けて取り組ん		おける現状や成果が上がっている	入学後の学生の分析の3つに所掌	
でいること。		取り組み及び課題を適切に把握し	を分け、それぞれを所掌する委員	
		ているか。	会などで効果や課題を把握する体	
			制を整えている。今後、少子化に	
			より学生数の減少が懸念される	
			が、本学のAPに適う学生を安定的	
			に確保するため、保健医療学部入	
			試制度改革ワーキンググループを	
			設置し、出願者の安定的な確保に	
			向けた取組に着手している。一方	
			で、APの検証の観点から、入試を	
			点検・評価していくための体制整	
			備が必要と認識しており、今後検	
			討を開始する計画である。	
③学生の受け入れに関わる状	No.508	点検・評価の結果を活用して、学	点検・評価の結果は、入学者選抜	S
況を定期的に点検・評価し、		生の受け入れに関わる事項の改	が実施された当該年度中に入試関	
改善・向上に向けて取り組ん		善・向上に取り組み、効果的な取	連委員会で審議し、審議結果は次	
でいること。		り組みへとつなげているか。	年度に関係部署に引き継いでい	
			る。直近の事例として、オンライ	
			ン出願システムの導入、オープン	
			キャンパスの内容の大幅な見直し	
			など、学生の受け入れに関わる事	
			項の改善・向上を図っている。ま	
			た、入試運営に携わった教職員に	
			よる振り返り結果の収集・活用に	
			より、入試ミスの防止や入試業務	
			の改善に反映している。	

### <保健医療学部>

- 課題 (B評価) については、記載のとおり改善を進めることが妥当。
- 〇 No.408について、学部間の運用の整合を図るため、医学部と協議・検討することが妥当(令和7年度末まで)。
- No.414及びNo.416に記載の「授業評価アンケートや在学生調査等の調査結果の効率的なデータ 共有方法」「学部教員によるデータへの適時のアクセス方法」については、教育評価検討小委員 会及び統合IRセンターにおいて検討することが妥当(令和7年度末まで)。
- No.416に記載の「授業評価アンケートの回収率の改善」については、教育評価検討小委員会に おいて改善方法を検討し、結論を得ることが妥当(令和7年度末まで)。

# (4) 保健医療学研究科

≥7. /T = ₹ 17.		27.17 o 28 h	自己点検・評価結果	
評価項目		評価の視点	現状説明(概要)	評価
①達成すべき学習成果を明確	No.401	DPにおいて、学生が修得すべき知	保健医療学研究科の専攻・課程の	Α
にし、教育・学習の基本的な			それぞれにDPを定め、学生が習得	
あり方を示していること。			すべき知識、技能、態度等を明示	
			している。また、専攻・課程ごと	
		必要な教育課程及び教育・学習の		
		方法を明確にしているか。	し、学習成果を達成するために必	
			要な教育課程及び教育・学習の方	
			法を明確にしている。	
	No. 402	上記の学習成果は授与する学位に		Α
		ふさわしいか。	目的及び教育研究上の目的に関連	
			したDPとなっているため、授与す	
		N/== N == 14 N	る学位にふさわしいと判断する。	
②学習成果の達成につながる	No. 403	学習成果の達成につながるよう、		Α
よう各学位課程にふさわしい			を定めるとともに、学習成果の達	
授業科目を開設し、教育課程			成に向けて、順次性のある授業科	
を体系的に編成しているこ		か。	目の配置に配慮した上でコース	
と。			ワークとリサーチワークを適切に	
			組み合わせ、体系的な教育課程を	
			編成している。	
③課程修了時に求められる学	No. 404	授業形態、授業方法が学部・研究		Α
習成果の達成のために適切な		I	育目標の下、各課程・専攻のCPに	
授業形態、方法をとっている			応じて授業形態と授業方法は設定	
こと。また、学生が学習を意		たものであり、期待された効果が		
欲的かつ効果的に進めるため		得られているか。	に授業形態と授業方法を示し、課	
の指導や支援を十分に行って			程修了時に求められる学修成果に	
いること。			対応している。博士課程前期・後	
			期において実施しているアンケー	
			ト調査では、修了生の7割以上が	
			知識・能力を概ね修得している旨	
			を回答しており、期待された効果	
			が得られていることを確認してい	
			る。	
	No. 405		保健医療学研究科では、関係規程	В
			に基づき、遠隔授業を導入してい	
		した授業科目に用いられている	る。学生に対し、遠隔授業に関す	
		か。また、効果的な授業となるよ		
		I	就業と学業の両立の観点から回答	
		が得られているか。	者の多くは遠隔授業を効果的に利	
			用していることを把握している。	
			一方で、議論を主体とする授業で	
			は対面形式が望ましいとの意見も	
			あり、遠隔授業の効果的な活用方	
			法を検討し、令和7年度中に新た	
			な方針を策定する計画である。	

評価項目
習成果の達成のために適切な 投業形態、方法をとっている こと。また、学生が学習を意
授業形態、方法をとっている こと。また、学生が学習を意 欲的かつ効果的に進めるため の指導や支援を十分に行って いること。  の指導や支援を十分に行って いること。  のがのでは、 のが、 のが、 のがは、 のが、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、
こと。また、学生が学習を意 欲的かつ効果的に進めるため の指導や支援を十分に行って いること。  行い、それによって学生が意欲的 かつ効果的に学習できているか。 の指導や支援を十分に行って いること。  行い、それによって学生が意欲的 かづくシラバスの作成など、着実な 学位取得に資する指導体制を構築 している。一方で、研究指導計画 書について、専門領域が多様なゆ えに履修パターンも異なるため、 各専門領域に応じた効果的な指導 計画をイメージ化できるモデルの 作成が必要と認識しており、令和 7年度から検討を開始する計画で ある。  ④成績評価、単位認定及び学 位授与を適切に行っていること。  No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か 成績評価及び単位認定は、規程に つ厳格で、公正、公平に実施して にある評価基準及び各科目の到達 目標により判定しており、各科目
欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。 かつ効果的に学習できているか。 づくシラバスの作成など、着実な学位取得に資する指導体制を構築している。一方で、研究指導計画書について、専門領域が多様なゆえに履修パターンも異なるため、各専門領域に応じた効果的な指導計画をイメージ化できるモデルの作成が必要と認識しており、令和7年度から検討を開始する計画である。  ④成績評価、単位認定及び学 位援評価及び単位認定を客観的か である。  「人人人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人のでは、人人の人人人人の人人
の指導や支援を十分に行っていること。  学位取得に資する指導体制を構築している。一方で、研究指導計画書について、専門領域が多様なゆえに履修パターンも異なるため、各専門領域に応じた効果的な指導計画をイメージ化できるモデルの作成が必要と認識しており、令和7年度から検討を開始する計画である。  ④成績評価、単位認定及び学 No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か 成績評価及び単位認定は、規程につ厳格で、公正、公平に実施して定める評価基準及び各科目の到達により判定しており、各科目
いること。
書について、専門領域が多様なゆえに履修パターンも異なるため、各専門領域に応じた効果的な指導計画をイメージ化できるモデルの作成が必要と認識しており、令和7年度から検討を開始する計画である。  ④成績評価、単位認定及び学 No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か成績評価及び単位認定は、規程につ厳格で、公正、公平に実施して定める評価基準及び各科目の到達といるか。
えに履修パターンも異なるため、 各専門領域に応じた効果的な指導 計画をイメージ化できるモデルの 作成が必要と認識しており、令和 7年度から検討を開始する計画で ある。  ④成績評価、単位認定及び学 No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か 位授与を適切に行っていること。  「成績評価及び単位認定を客観的か である評価基準及び各科目の到達 いるか。」
各専門領域に応じた効果的な指導計画をイメージ化できるモデルの作成が必要と認識しており、令和7年度から検討を開始する計画である。  ④成績評価、単位認定及び学   位授与を適切に行っていること。    A
計画をイメージ化できるモデルの 作成が必要と認識しており、令和 7年度から検討を開始する計画で ある。 ④成績評価、単位認定及び学 No.407 成績評価及び単位認定を客観的か 位授与を適切に行っていること。
作成が必要と認識しており、令和 7年度から検討を開始する計画で ある。 ④成績評価、単位認定及び学 No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か 成績評価及び単位認定は、規程に 位授与を適切に行っているこ と。 ロ機格で、公正、公平に実施して により判定しており、各科目
7年度から検討を開始する計画で ある。 ④成績評価、単位認定及び学 No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か 成績評価及び単位認定は、規程に 位授与を適切に行っているこ と。 ロ競格で、公正、公平に実施して 定める評価基準及び各科目の到達 いるか。 目標により判定しており、各科目
ある。   ④成績評価、単位認定及び学   No. 407   成績評価及び単位認定を客観的か   成績評価及び単位認定は、規程に   日標により判定しており、各科目   日標により判定しており、各科目
④成績評価、単位認定及び学 No. 407 成績評価及び単位認定を客観的か 成績評価及び単位認定は、規程に A 位授与を適切に行っているこ と。
位授与を適切に行っているこ   つ厳格で、公正、公平に実施して   定める評価基準及び各科目の到達   日標により判定しており、各科目
と。 目標により判定しており、各科目
の日悔に必 ナフセフノン・
の目標に沿ったアセスメント・
マップを作成の上、評価基準を明
確化するなどにより、客観的かつ
厳格で、公正、公平に実施してい
る。今後は新たに策定した全学的
な成績評価に関するガイドライン
に基づき、取組を推進する計画で
ある。
No.408 成績評価及び単位認定にかかる基 成績評価の方法と基準はシラバス A
準・手続(学生からの不服申立へ を通じて学生に明示している。学
の対応含む)を学生に明示してい生からの不服申立の手続きについ
るか。  ては、実施要領を定めている。
No.409 既修得単位や実践的な能力を修得 既修得単位の認定について、研究 A
している者に対する単位の認定等  科委員会の議を経て研究科長が認
を適切に行っているか。   定することや手続きの手順等を規
程に定め、適切に運用している。
No.410 学位授与における実施手続及び体 学位授与における実施手続き及び A
制が明確であるか。 体制については、研究科委員会の
議を経ることなどを規程に明確に
定めて運用している。
No.4II DPに則して、適切に学位を授与し 学位授与に係る実施手続きや体制 A
ているか。を整備の上、研究科の教育方針や
DPに基づき、適切に実施してい
る。

評価項目	評価の視点	自己点検・評価結果
可顺久口	計画の形成	現状説明(概要) 評価
⑤学位授与方針(DP)に明示 した学生の学習成果を適切に 把握及び評価していること。	No.412 学習成果を把握・評価する目的や 指標、方法等について考えを明確 にしているか。	学修成果を把握・評価する目的や 指標、方法等についての考えを明 確にするため、全学及び研究科の それぞれに3ポリシーを策定し、 これらのポリシーに基づき、教育
		評価の方針(アセスメント・ポリシー)を定めている。一方で、CPの中に学修成果の評価方針を定める必要があることを認識しており、令和7年度に改善を図る計画である。
	No.413 学習成果を把握・評価する指標や方法は、DPに定めた学習成果に照らして適切なものか。	学習成果を把握・評価する指標・ A
⑤学位授与方針(DP)に明示 した学生の学習成果を適切に 把握及び評価していること。	No.414 指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。	
⑥教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。		複数の委員会において、アセスメント・リスト・ポリシーやアセスメント・リストに照らし、学修成果の修得状況及び教育課程に関する評価・検証を定期的に実施しており、その結果を教育の改善・向上に反映している。また、令和6年度から新たな内部質保証体制下での運用を開始しており、自己点検・評価の体制、方法及び周期等を規程に定め、大学公式Webにも掲載している。
	ける学生の学習状況、資格試験の 取得状況、進路状況等の情報を活	課程修了時には、アセスメント・ リストに則り、学生によるDPの達成度の自己評価に係る評価を実施 している。また、大学院生の学位 論文審査を開催し、研究活動の進 捗状況や内容の精査を行うなど、 多面的な評価の結果を用いて教育 課程及びその内容等の改善・向上 に取り組んでいる。
	るか。	令和6年度から、研究科長、専攻 代表と学生による懇談会を開催 し、学生からの意見を直接聴取す る機会を設けているほか、年2回 授業評価アンケートを実施してい る。
	No. 418 自己点検・評価の結果を活用し、 教育課程及びその内容、教育方法 の改善・向上に取り組んでいる か。	自己点検・評価の結果を活用した 教育課程等の改善・向上の取組に ついて、複数の委員会で連携し取 り組んでいる。一方で、授業評価 アンケートの回収率が低いことが 課題と認識しており、令和7年度 に回収率を高める方策を検討し、 改善に取り組む計画である。

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計		計画の作品	現状説明(概要)	評価
①学生の受け入れ方針(AP)に基づき、学生募集及び入学 者選抜の制度や運営体制を適			保健医療学研究科では、課程ごと にAPを設定しており、大学公式	А
切に整備し、入学者選抜を公		にも   に は と し に は と し に は と し に に は と し に は に は に は に は に は に は に は に は に は に	Webに子主券未安頃にも拘戦して いる。	
平、公正に実施しているこ	No. 502		課程ごとに定めるAPに、求める学	В
と。		準、能力等の求める学生像や、入	生像、入学までに学習しておくこ	
		学希望者に求める水準等の判定方	とが期待される内容を志願者に分	
		法を志願者等に理解しやすく示し	かりやすく明示している。また、	
		ているか。	入学者に求める資質・能力につい	
			て、学生募集要項及び大学公式	
			Web等に掲載している。一方で、	
			令和8年度入試から予定する入学	
			者選抜に関する情報の公表方法に	
			ついて、令和7年度中に関係委員	
			会で検討の上、準備を進める計画	
	N- F02	ADJ	である。	Δ.
	NO. 503	APに沿い、適切な体制・仕組みを 構築して、営者器はたハエーハエ		Α
		情楽して入学有選抜を公平、公正   に実施しているか。	め、関係規程に基づき、保健医療 学研究科に入試委員会を設置して	
		に美心しているが。	おり、APに沿い選抜の方針、方法	
			及び体制を検討し決定の上、公	
			平、公正な試験を実施している。	
	No. 504	   入学者選抜にあたり特別な配慮を	関係規程を整備の上、入学者選抜	Α
	110.001		にあたり特別な配慮を必要とする	^`
		みを整備しているか。	志願者に対応する体制を構築して	
			いる。また、特別な配慮を要する	
			志願者に対し、学生募集要項や大	
			学公式Webなどに事前相談できる	
			旨を明記し、対応している。	
	No. 505	すべての志願者に対して分かりや	希望者に学生募集要項の冊子を配	Α
		すく情報提供しているか。	付するほか、大学公式Webで公表	
			し、すべての志願者に対して分か	
			りやすく情報提供している。ま	
			た、大学院説明会を開催し、志願	
			者に直接説明する機会を設けてい	
	N 504	W 1 20 10 A 11 7 1 A 12 A 12 A 12 A 12 A 12 A 12	3. ************************************	
②適切な定員を設定して学生	No. 506	学士課程全体及び各学部・学科並		В
の受け入れを行うとともに、	1		在籍学生数の適正な維持に資する	
在籍学生数を収容定員に基づ き適正に管理していること。	1		ため、学生への指導・支援の体制 や教育資源が適切であるかを確認	
こ週上に目圧ししいること。 	]	な定貝超週や定貝木允定の場合に  は対策をとっているか。	で教育質源が週切(あるかを確認   している。一方で、看護学専攻の	
	]	INVINCED CALONO	している。一方で、看護学専攻の   博士課程前期において、定員充足	
	]		率の低減が見られている。対応策	
	]		として、就業と学業の両立の観点	
			から、研究科教務委員会で現状分	
			析や方略の検討を行うワーキング	
	1		グループの設置や、オンライン授	
			業の拡充により学修環境の利便性	
			を高めるなどの改善活動を進めて	
	]		おり、今後も、継続的に改善に取	
			り組む計画である。	

評価項目		評価の視点	自己点検・評価結果	
計画項目		計画の代点	現状説明(概要)	評価
③学生の受け入れに関わる状	No. 507	学生の受け入れに関わる事項を定	入学者選抜の内容や方法につい	Α
況を定期的に点検・評価し、		期的に点検・評価し、当該事項に	て、入学者選抜に係る様々なデー	
改善・向上に向けて取り組ん		おける現状や成果が上がっている	タを基に、関係委員会で毎年度検	
でいること。		取り組み及び課題を適切に把握し	証を行い、改善に取り組んでい	
		ているか。	る。また、試験問題についての	
			質、量及び適切性を検討するプロ	
			セスを確立している。	
③学生の受け入れに関わる状	No. 508	点検・評価の結果を活用して、学	学生の受け入れ状況に関する検	В
況を定期的に点検・評価し、		生の受け入れに関わる事項の改	証・改善に当たっては、関係の会	
改善・向上に向けて取り組ん		善・向上に取り組み、効果的な取	議・委員会において、毎年、入学	
でいること。		り組みへとつなげているか。	後の成績やアンケート等の追跡調	
			査の分析結果を用いて課題を明ら	
			かにし改善に取り組んでいる。ま	
			た、入学者は就業している学生が	
			多く、学業との両立に配慮し、入	
			学後の生活をイメージできるよう	
			Q&A集を作成の上、大学公式Webに	
			公開している。一方で、入学試験	
			の検証結果を踏まえ、外国語(英	
			語)試験の取扱いの検討に着手し	
			ており、令和7年度中に課題を改	
			善すべく入試委員会等で議論を行	
			う計画である。	

### <保健医療学研究科>

○ 課題 (B評価) については、記載のとおり改善を進めることが妥当。

# (5) 専攻科

(5) 导攻科		自己点検・評価結果	
評価項目	評価の視点	現状説明(概要)	評価
①達成すべき学習成果を明確 にし、教育・学習の基本的な あり方を示していること。	らかにしているか。また、CPにおいて、学習成果を達成するために	攻のそれぞれで求められる知識、 技能、態度等の学修成果を明らか	A
	No.402 上記の学習成果は授与する学位に ふさわしいか。	修了の要件は規程に定めており、 各学科ごとにDPを定めており、両 専攻科の高い専門性と実践力を備 えた者に修了書が授与されること から、授与する学位に相応しいと 判断する。	Α
②学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	育課程を体系的に編成しているか。	各専攻においては、学修成果の達成、それぞれの職における、CPに成までで、教育を開発しため、などのでで、教育を開発している。というでは、教育ののでは、教育の配置時期のでは、対している。と認識しており、対している。をは、ないのではないでは、ないのでは、ないのではないでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないのでは、ないのでは	В
③課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	時に求める学習成果及びCPに応じ	を定めた規程等に基づき、科目の 特性に応じた効果的な教育を実施 している。学習成果は国家試験合 格率や修了時調査から、期待され た効果が得られていることを確認 している。	A
	した授業科目に用いられている か。また、効果的な授業となるよ	専攻科では、ICTを利用した遠隔 i 授業についての申し合わせを定め 2022年度から運用しているが、面 接授業を基本としているが、直近 では遠隔授業を実施していない。	A
	応や学生に対する適切な指導等を 行い、それによって学生が意欲的	各専攻の定員は15名であり、授業 科目は保健師又は助産師の国てで 験受験資格を得るためにするでいる。少人数制の教理 りではより、学生一人ひとりのののでは はい、学生のででは はい、学生のででは はい、学生のででは はいる。 が、学生のででは はいる。 が、では が、でいる。 が、でいる。 では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では、では では では、では では では、では では では では でいる。 でいる。 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	A

<b>並在</b> 石口	が年の祖よ	自己点検・評価結果	
評価項目 	評価の視点	現状説明(概要)	評価
④成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。		か成績評価及び単位認定について、 て関係規程に明確に定めており、客 観的かつ厳格で、公正、公平に実 施している。今後は新たに策定し た全学的な成績評価に関するガイ	A
		ドラインに基づき、取組を推進する計画である。	
		<ul><li>■ 成績評価の方法と基準及び成績評</li><li>↑ 価に対する学生からの疑義申立の</li><li>↑ 手続きについては、「学修の手引き」に明示している。</li></ul>	A
	No. 409 既修得単位や実践的な能力を修行している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。	导 自己点検・評価の対象外(専攻科 等 の授業科目はすべて必修であり、 教養教育、専門教育に関連した実 践的な能力を修得している者に対 する単位の認定は実施していな い)	A
	No.410 学位授与における実施手続及び作制が明確であるか。	本 学位授与における実施手続き及び 体制については、専攻科委員会の 議を経ることなどを規程に明確に 定めて運用している。	А
	No.411 DPに則して、適切に学位を授与しているか。		Α
⑤学位授与方針(DP)に明示 した学生の学習成果を適切に 把握及び評価していること。	にしているか。	* 学修成果を把握・評価する目的、 審 指標及び方法等についての考えを 明確にするため、3ポリシーを策 定し、これらのポリシーに基メン ト・ポリシー)及びアセスメン ト・ポリシーと変めている。 で、CPの中に学修成果の評価方針 を定める必要があることを認識し ており、令和7年度に改善を図る 計画である。	В
	No.413 学習成果を把握・評価する指標や方法は、DPに定めた学習成果に見らして適切なものか。	P DPに対応させた臨床・臨地実践能 別 力評価を作成・活用している。ま た、臨床・臨地実践能力評価につ いては、両専攻教員により保健 師・助産師に求められる能力を検 討し作成している。	A
⑤学位授与方針(DP)に明示 した学生の学習成果を適切に 把握及び評価していること。	果を把握・評価し、大学として記	式 全学的に行っている「授業評価ア ンケート」「修了生・雇用者調 で 査」はもとより、特に臨床・臨地 実践能力評価、修了時調査を毎年 行うことにより、多角的に教育内 容の実施状況や習得状況を評価し ている。また、得られた結果は次 年度の改善活動に適時に反映して いる。	A

÷≖/π-75 □	評価の視点		自己点検・評価結果	
評価項目			現状説明(概要)	評価
⑥教育課程及びその内容、教	No.415	教育課程及びその内容、教育方法	教育課程及びその内容・方法の適	Α
育方法について定期的に点		に関する自己点検・評価の基準、	切性について、アセスメント・ポ	
検・評価し、改善・向上に向		体制、方法、プロセス、周期等を	リシーに自己点検・評価に係る事	
けて取り組んでいること。		明確にしているか。	項を規定の上、定期的に点検・評	
			価及び改善に向けた取組を行って	
			いる。また、令和6年度から新た	
			な内部質保証体制下での運用を開	
			始しており、自己点検・評価の体	
			制、方法及び周期等を規程に定	
			め、大学公式Webにも掲載してい	
			る。	
	No.416	課程修了時に求められる学習成果	教育課程及びその内容、教育方法	Α
		の測定・評価結果や授業内外にお	の点検・評価について、毎年実施	
		ける学生の学習状況、資格試験の	する教育課程レベル、科目レベル	
		取得状況、進路状況等の情報を活	及び学修到達レベルの3つの評価	
		用するなど、適切な情報に基づい	を通じて得られる多様な情報を用	
		ているか。	いて取り組んでいる。	
	No.417	外部の視点や学生の意見を取り入	学生による授業評価や修了時調査	Α
		れるなど、自己点検・評価の客観	を毎年行っている。また、修了生	
		性を高めるための工夫を行ってい	を対象とした修了生調査や就職先	
		るか。	を対象とした雇用者調査を実施す	
			るなど、内外からの意見を取り入	
			れている。	
	No.418	自己点検・評価の結果を活用し、	アセスメント・ポリシーに定める	Α
		教育課程及びその内容、教育方法	評価の内容・時期・方法に基づく	
		の改善・向上に取り組んでいる	各調査の結果を分析の上、教育の	
		か。	課程、内容及び方法の改善・向上	
			に取り組んでいる。	

<b>並在</b> 看日	評価の視点		自己点検・評価結果		
評価項目			現状説明(概要)	評価	
①学生の受け入れ方針(AP)	No.501	APは、少なくとも学位課程ごと	各専攻共通のAPを設定しており、	Α	
に基づき、学生募集及び入学		(学士課程・修士課程・博士課	大学公式Webや学生募集要項にも		
者選抜の制度や運営体制を適		程・専門職学位課程)に設定して	掲載している。		
切に整備し、入学者選抜を公		いるか。			
平、公正に実施しているこ	No.502			Α	
と。		準、能力等の求める学生像や、入	像、入学希望者に求める水準等を		
			志願者に理解しやすく明示してい		
			る。APは学生募集要項及び大学公		
		ているか。	式Web等に明示しているほか、志		
			願者向けの説明会においてAPの説		
			明を行うなど理解を促す工夫を		
			行っている。		
	No.503	APに沿い、適切な体制・仕組みを		В	
			め、関係規程に基づき専攻科に入		
		に実施しているか。	試委員会を設置しており、APに沿		
			い選抜の方針、方法及び体制を検		
			討し決定の上、公平、公正な試験		
			を実施している。一方で、令和5		
			(2023) 年度入学者選抜試験にお		
			いて試験運用の一部を変更して以		
			降、3年を経過したことから、入		
			試委員会で試験の内容や結果等を		
			分析し、入学者選抜の方法に関す		
			るDPとAPとの整合性を検証する評		
			価体制を検討していく必要がある		
			と認識しており、今後、議論を進		
	No EO/	\ 労去窓井にまた !	める計画である。 関係規程を整備の上、入学者選抜	Λ	
	NO.504			Α	
			にあたり特別な配慮を必要とする 志願者に対応する体制を構築して		
		みを整備しているか。	心願名に刈心する体制を構架して   いる。また、特別な配慮を要する		
			志願者に対し、学生募集要項や大		
			学公式Webなどに事前相談できる		
			旨を明記し、対応している。		
	No. 505	  すべての志願者に対して分かりや		A	
	10.505	すべての心願者に対して分かりや  すく情報提供しているか。	関する情報は、すべての志願者に	^	
			対して分かりやすく提供するため		
			に学生募集要項及びHPで公表して		
			おり、情報を入手しやすい状況で		
			ある。		
	No. 506	学十課程全体及び各学部・学科並	入学定員の充足状況は適正な範囲	A	
の受け入れを行うとともに、	1.0.300		で推移しており、定員の未充足は	, ,	
在籍学生数を収容定員に基づ			生じていない。大幅な定員超過や		
き適正に管理していること。		な定員超過や定員未充足の場合に			
		は対策をとっているか。	た、入学者の質・適性や定員を適		
			切に保つことに配慮の上、入学者		
			選抜を実施している。		
ļ	<u> </u>	<u> </u>	~*** - \^\\" 0 \ \ \ 0 0		

評価項目	評価の視点		自己点検・評価結果	
計画項目			現状説明(概要)	評価
③学生の受け入れに関わる状	No.507	学生の受け入れに関わる事項を定	2020(令和2)年度に2専攻の体	В
況を定期的に点検・評価し、		期的に点検・評価し、当該事項に	制となってからの入学者選抜につ	
改善・向上に向けて取り組ん		おける現状や成果が上がっている	いて、APに適った学生の受け入れ	
でいること。		取り組み及び課題を適切に把握し	に関する評価を実施する時期にあ	
		ているか。	ると認識している。今後、入試委	
			員会で点検・評価を実施の上、学	
			生の受け入れに関する成果や課題	
			を定期的に把握していくための体	
			制構築に取り組む計画である。	
③学生の受け入れに関わる状	No.508	点検・評価の結果を活用して、学	2020(令和2)年度から、臨床・	В
況を定期的に点検・評価し、		生の受け入れに関わる事項の改	臨地実践能力評価、授業評価アン	
改善・向上に向けて取り組ん		善・向上に取り組み、効果的な取	ケート、修了時調査、修了生・雇	
でいること。		り組みへとつなげているか。	用者調査を通じて多様なデータを	
			得ている一方、データに基づく入	
			学者選抜のさらなる質向上を図る	
			仕組みを整える必要があると認識	
			している。今後はデータを活用し	
			入学者選抜の点検・評価を行う仕	
			組み作りに取り組む計画である。	

### <専攻科>

○ 課題(B評価)については、記載のとおり改善を進めることが妥当。